



写真は二部会総会 立ち上がって発言するのは辻 永

文部省の面目を丸潰しの二部会

待遇拒絶・不出品決議

(28)

反帝展の二部会では二日午後六時から丸之内のマーブルで『参与指定、付則を拒絶する総会』を開催した。参与候補にあげられた田邊至、辻永、

牧野虎雄、金山平三、小林萬吾の五氏の他、中村研一、清水良雄、太田三郎氏等五十名参集、まづ小林氏から委員会の報告があり、京都の太田喜二郎、耳野卯三郎、角野伴次郎氏等や旅行中の安宅安五郎氏からの「凱歌、喜びに堪へず」「結束して凜然進め」等々の祝電が披露され、一同氣勢を挙げて別項の如き声明を發し、帝展の与へた参与、指定、付則等一切の待遇を拒絶して、帝展には一切出品せぬことを明らかにした。帝展第二部の参与は十一名のうち残るところ長谷川昇、山本鼎の二氏のみとなり文部省の面目丸潰れとなった。

○：かくて帝展の洋画部は藤島武二、岡田三郎助氏等の所謂七会員は官展不開催の立場から、来秋の第二回帝展にも出品はせぬと見られるので、会員は半潰、参与は殆ど全潰、その他指定、付則によるものも「かかる平価切下げのな国定格付番付」には二部会、春陽会、独立美術等を始め、殆ど洋画壇を挙げて不快の念を以て迎へ、文部省の企画した帝展改組も遂に洋画部を逸したビツコになり終った。

第二部会声明

先に本会がそれに慊あきらざりし新帝国美術院のその総会において議決せられたる参与及び各種の待遇に関しては、その發令に際しこれを辞退することを声明する。



写真は二科会緊急総会 左から二人目 藤田嗣治

二科会も全く新帝展と絶縁

きのふ緊急総会で決定

(28)

反帝展の態度を明らかにしてゐる二科会は、去月廿九日新帝国美術院総会で参与、指定が発表されたので従来の立場上、これを拒絶するものと見

られてゐたが、正宗徳三郎、藤田嗣治両会員が旅行中だったので声明を控へてゐたところ両氏が帰京したので、四日午後六時から四谷番衆町一七同会事務所にて緊急総会を開き、在京会員及び大阪から上京の鍋井克之、黒田重太郎、横井禮市等の会員（阪本繁二郎氏欠席）出席、協議の結果、左の声明を発表した。

声明書

二科会は先に声明せる如く、帝国美術院改組に対しては絶対に無關心なり。従つて今回発表せられたる諸種資格に就いては本会員及び会友に関する限りこれを受諾せざるものとす。右重ねて声明す。

『時事新報』 昭和十年十二月五日